

2022 東京 FW 仮説一覧

Mission「未来社会で幸せをつかみ取るためにあなたができる持続可能な方法を探る」

2022/11/14 現在

- 1 ドラゴンボールに登場するホイホイカプセルはボタンを押してカプセルを投げることで家や車が出現し、逆に家や車に付いているボタンを押すとカプセルに戻るアイテムである。このホイホイカプセルのように、世の中の車やバイク、家などをコンパクトにし、持ち運びできるようにする。これが実現すれば災害時に起こる問題を解決できるようになる。例えば、災害時、住居や移動手段がなくなってしまったとき、仮設住宅や移動手段を、個人ですぐに用意できるようになる。
- 2 AI イラスト生成機能が大衆化することでイラストレーターなどの仕事が失われたり、著作権が誰のものか分からなくなったりといった問題も生じてしまう。そこで法律を整備することで、人々に受け入れられ、安心して利用されていくようになる。また、仕事が奪われてしまう問題に対しては、人間にAIにはできない価値を見出すことができれば、失われることもない。このように人間のアートとAIのアートを認め合い、融合させて、さらなる発展を目指す。
- 3 我々はこれからの未来社会では対面で人と関わる機会が減り、孤独感からストレスを感じることも多くなるのではないかと予想する。そこで各々の経験などをふまえ、精神的な疲れ・苦痛には音楽が大きく作用するのではないかと考えた。現代では「音楽療法」という治療方法も存在しており、我々はその技術を用いてバーチャル空間でも気軽に心を安らげられるような環境を作りたい。バーチャルの技術はこれからもさらに進歩を遂げ、一つの機器からでも簡単にバーチャル空間に行くことができ、全身で音楽を体験できるような環境になるだろう。だからこそ、音楽を全身で体験することのできるバーチャルの技術を使っていきたい。
- 4 我々は、現在の社会では、日々の生活のために働く必要があるために、やりがいや、社会貢献を重視する働き方が可能な労働者が少なくなっていると考える。
そのために、そのような働き方を実現するためにベーシックインカムを導入する。
- 5 テレワークやメタバースなどのオンラインコミュニケーションやドローンによる配達などを普及させるという方法で、住む場所によって教育を受けることや仕事が限られるという現状が改善され、都市に集中している人口が分散し、高速道路や鉄道の混雑、車による大気汚染などの問題が解消される。
- 6 昆虫食と培養肉を「環境にやさしい食料品」として売り出し、生活の一部に取り入れることで、人口に対してタンパク質の需要と供給のバランスが崩れる「タンパク質危機」が訪れるとされている未来社会で私たちが持続可能にタンパク質を補給することができる。また、味、見た目、食感ともに従来の食品と変わらないような調理法により、全員が違和感なく当たり前昆虫食や培養肉を食べることができる。

- 7 世界各国の子供たちが集まる教育の場を作ること、周囲の環境が原因で高水準の教育が受けられない子供が減り「質の高い教育をみんなに」という SDGs のゴールの一つを達成することが可能。『教育の場』の具体的な考えとして「学園都市」を作ること提案する。世界各地に学校・学習施設などが集まった学園都市を作りそこに世界各国の勉強がしたい子供たちを集める。子供たちはその都市に卒業までの間住みながら世界水準のレベルの高い教育を受けることができる。クラスの生徒は様々な国の子供たちが一緒に授業を受けることのできるシステムになっており、グローバルな環境になっている。授業は特別教員試験に合格した水準の高い教師が行う。
- 8 各国の文化や発想に触れ、新しいアイデアを生み続けられる、移動型空中都市をつくる。
- 9 一粒食べるだけでおなか一杯になって、栄養も取れるものを開発するという方法で食糧危機、ごみ問題が深刻化していくという現状が、少しでも改善される。
- 10 空飛ぶクルマの普及により利便性が向上し、自動運転によって人間の移動がこれまでよりも負担の少ないものになる。一方で、起こる事故の規模が拡大する恐れがある。安全性と利便性の両方を実現するために自動で動き、事故を起こさない、安全で完璧な空を飛ぶ車を普及させる。
- 11 身近な動物や、絶滅した動物などの AI ロボットを作るという方法で、情報不足などで進んでいない動物や古代の環境などの研究だったり、人が減少しつつあって手が回りづらくなっている害獣駆除だったりなどの現状が画期的なレベルで改善される。
- 12 国家、企業、個人など幅広い単位で参加できるコンテストを開き、宇宙ゴミ除去のための技術やアイデアを募集する。その中で特に優れたものを選び、応募者に対し先進国が開発に必要な資金と技術を提供する。
- 13 職探しの際に職業体験をできるようにすること、肩書や年齢を無視した会議を開くこと、見た目を顔加工アプリの様に簡単に換えられるようにすることなど、各世代のニーズに合わせた企画を行うことで働くモチベーションを保ち続けられると考える。
- 14 私たちは、国境をなくし世界が一体化することで、今挙げられている戦争や格差の問題が解決され平和な世界が実現するのではないかと考えた。そこで紙幣と法律を統一することで、私たちの実現したい未来につながると考えた。
- 15 私達は、「転職者に向けた合同会社説明会を開き、また転職を推奨する転職月間を設ける」ことを仮説として提案する。転職月間の前に合同会社説明会を開くなど、この二つを連携させることでより効果的に転職を活発化させられるとも考えている。社会が転職の機会を積極的に作ることで、転職のハードルが高い、転職者が優遇されにくい、と言った現状を打開できるのではなかろうか。
- 16 AI ロボットが家族の一員として一人一台共に過ごし、家庭の様子やその人の心・体の様子を観察してもらう。またその人の普段の様子から判断した、その人にとって必要な精神面での家族のかわり、補助を行ってもらう。
(例) 片親のこどもであったら両親の代わりとなってしかってあげたり、褒めてあげたり未婚の人であったらパートナーの代わりとなって愚痴を聞いてくれたり、
愛を伝えてくれたり など
これによって今の社会で増えている家庭内暴力や病氣、障害などの早期発見に繋がったり、うつ病・孤独死の予防、減ってしまったコミュニケーションの増加や安定的な心身面での成長を見守ることができる。
- 17 高齢化社会において増えていく「働く高齢者」の楽しみとなれる『ウルトラカセット VR 旅行』を普及する

- 18 未来社会でAIの一つ一つが持ち主の嗜好をきちんと理解、把握していると想定する。そこで自分の嗜好を完全に理解したAIによる性的マイノリティの方々にも配慮されたマッチングAIを作るという方法を提案し、皆が皆、運命の人だと思える人と過ごせる幸せをつかみとれるようにする（第一ステップ）。だがマッチングAIを利用し最高の相手に巡り合えたとしても、世間や周囲の人の偏見や差別、犯罪があるとその人たちは本当の幸せを手に入れられたわけではないだろう。そのためマッチングAIを制作した後に残る偏見、差別問題などはこれからの課題だ（第二ステップ）。そして、性的マイノリティに人やその他いろいろな人が互いを認め合い、堂々と胸を張って日々を生きていける未来社会を目指す（第三ステップ）。
- 19 五感で映像を体験するという方法で、映像は見るだけという現状が変化して、映像の中に入り込めるようになる。現実や今の映像だけでは体験できない昔の生活や映画の世界観での生活を映像と五感を組み合わせて体験できるようになる。
- 20 エンバーミングをする際に遺族の許可を取った上で遺体の口角を少し上げるという方法で、遺族が不慮の事故や外傷がひどい状態で亡くなった方の最期の姿から大いなる悲壮感を受けるという現状が少しでも和らぎ、安心して送り出せるようになる。これからの社会で大切になっていくのは、亡くなった人の今後と遺族のフォローだと考える。現在は、外傷の修復はできるが、表情は変えられない。
- 21 家と街の両方に災害対策を行い街全体も一つのシェルターようにしていかなる災害にも対応できる「防災シティー」を作るという方法で、災害が起きても一時的に避難したり、最悪街を出て他の場所で暮らす必要がなくなる社会にする。
- 22 地球と共生した快適な地球にやさしい服作りをするという方法で、未来の温暖化から起こる気温上昇により過ごしにくくなった地球に快適を生み出す。
- 23 未来社会は仮想空間での生活時間が増え直接的な人とのかかわりが減ると考えられる。しかし、人と交流が直接できる施設や住まいの建設によってより直接人とかかわる機会が増やし、仮想空間と現実空間の両方で充実した生活を送れるようにする。そのために、移動型マンションの建設と新しい地域づくりを提案する。
- 24 「文通サービス」によって、LINE疲れなどのデジタル文化で起こっている問題が解決される。
- 25 人間と動物が共生できるエリアを作ることを目指す。ボランティアなどを募って「共生エリア」で暮らす動物や植物を育てることで、直接「人間の手で」環境を作っていく。一般の人が関われるこのような取り組みを行うことで、誰にでも生き物を身近に思ってもらえるようにする。
- 26 企業の社員が趣味で集まるサークル活動の手助けや、スポーツなどの大会の企画運営を行うアプリを作り、運営することで、強い達成感を実現する。
- 27 世界各国のラジオ局が集まった国際チャンネルをつくり、「人の声」で各国の企画を全世界に放送する。